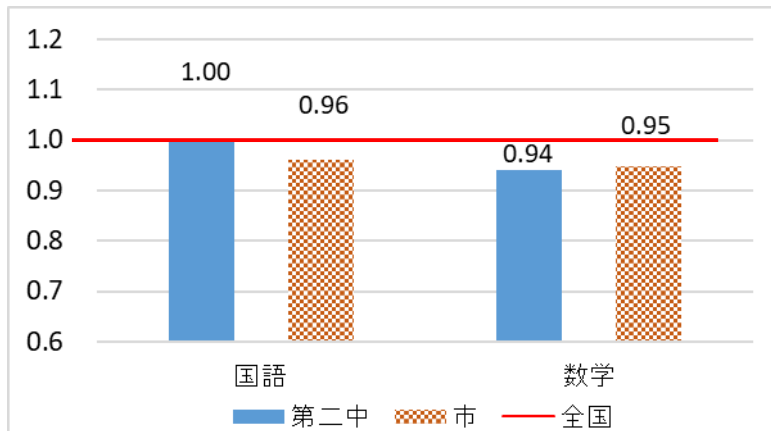


# 令和3年度 全国学力・学習状況調査について

第二中学校区 第二中学校

第3学年

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



○調査結果についての分析、今後の改善方策

## 【国語】

学習指導要領の領域における「書くこと」・「読むこと」・「伝統的な言語文化と国語の特質に係る事項」の領域が、全国平均を上回る結果（順に 3.0P、1.5P、1.1P）であった。また、選択問題については、無回答率が0%であることから、子どもたち粘り強く解答する姿勢が伺える。一方、記述式の問題形式において、全国平均を下回っている(-3.2P)ことから、今後も継続して授業時に、自分の意見を相手に伝えるように書ける表現力を身に付けられるよう指導を行っていく。

## 【数学】

学習指導要領の領域における「資料の活用」の領域が、全国平均を上回る結果(2.1P)であった。特に、「2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ」問題については、全国平均を大きく上回っている(6.3P)。一方、「図形」領域が、全国平均を大きく下回る結果(6.1P)となっていることから、今後、それぞれの図形の性質を理解し、その条件や証明について、数学的な見方・考え方ができるよう指導を行っていく。

## 【質問紙調査】

「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に肯定的に回答した生徒の割合が増加傾向である。学校全体で授業や行事毎に、子どもたちが互いに認め合いながら取り組んでいくことで、自分自身で成長と改善点を見出し、次の目標に向けて前向きに取り組んだ結果だと考察する。また、新型コロナウイルス感染拡大による休校期間中、勉強について不安を感じている生徒がいたことから、その不安を解消できるよう丁寧な対応を行っていく。

○学力向上の取組

## 【中学校区】

- ・毎回の授業に対して、責任とプライドを持った「真心の授業」の実践
- ・子どもたちの学力向上に向けた具体的方策の確立（主体的な学習者の育成）
- ・各種学力テスト及び質問紙、アンケート等の分析を通じた、結果と課題の共有
- ・分析結果を利用した課題克服の手立ての共有
- ・家庭学習の定着と自主学習の推進
- ・校区3校の公開授業の推進

## 【学校】

### I 家庭学習について

家庭学習を習慣付けるため、自主学習ノートを活用し、子ども自身が考えて学習する習慣を付けることをめざす。また、ロイロノート等を活用し、学校の授業内容の確認や宿題等を家庭で確実に実施できるように効率化することで、家庭学習の充実を図る。

### II 授業について

主体的、対話的に深く学習できる環境を設定している。また、誰もが「わかる」「できる」を数学科と英語科において、2・3年生では二分割及び習熟度別授業を展開するとともに、補充学習として演習授業を実施し、学力向上に向けて取り組んでいる。